

伊勢物語

さらぬ別れ

昔、男ありけり。身はいやしながら、母なむ宮なりける。その母、長岡

といふ所に住み給ひけり。子は京に宮仕へしければ、まうづとしけれど、

しばしばえまうです。ひとつ子にさへありければ、いとかなしうし給ひけり。さるに、十二月ばかりに、とみのこととて、御文あり。驚きて見れば、

歌あり。

老いぬればさらぬ別れのありといへばいよいよ見まくほしき君かな

かの子、いたううち泣きて詠める。

世の中にさらぬ別れのなくもがな千代もと祈る人の子のため

(第八四段)

3 見まくほしき 「まくほしき」は

「まほしき」に同じ。

1 宮

天皇の子。

2 長岡

現在の京都府長岡市。

向日市辺り。

